

教員紹介



大住雄一 おおすみ ゆういち

●学歴/経歴 1983年東神大大学院卒。独ベテル神学大学卒（神学博士）。日本基督教団正教師。1990年に着任、現在、教授。

●専門分野 旧約聖書神学

●研究テーマ 広い守備範囲をカバーしなければならない旧約聖書の学びの中で、小友先生と共に、また若い田中先生に期待しながら、私が特に専門にしているのは、律法にかかわる議論です。

その言葉の形、言葉の奥に潜んでいる神の意図、それらを広く、深く学んできました。しかし、このごろ律法の中でも十戒に議論が集中しつつあります。それだけ学びの視野は広いのです。しかし同時に、律法へのイスラエルの賛美や律法に込められた知恵の伝統に注目しています。初めから申命記を丹念に読み続けていますが、詩編に目を移して、その言葉の不思議を楽しんでいます。



《著書・論文》

- ・Deuteronomy, in: W.R.Farmer et al.(eds.), International Bible Commentary, Colleville MN (The Liturgical Press), 1998.
- ・『詩篇研究』への補遺—アルファベータうたをめぐって—大野恵正他編『果てなき探求 旧約聖書の深みへ [左近淑記念論文集]』教文館 2002年
- ・『神の面前に立って 十戒の心』教文館 2015年



小友 聡 おとも さとし

●学歴/経歴 1986年東神大大学院卒。独ベテル神学大学卒（神学博士）。日本基督教団正教師。1999年に着任、現在、教授。

●専門分野 旧約聖書神学

●研究テーマ 旧約聖書学が専門ですが、特に旧約聖書の中で後期の知恵文学を研究領域としています。コヘレトの言葉や雅歌、ダニエル書など、周延的な文書から旧約（ユダヤ教）の思想や倫理を探究しています。

特にコヘレトの言葉と黙示思想の関係に関心があります。コヘレトがダニエル書の黙示思想と対論をして反黙示的性質を有することから、旧約以後のユダヤ教や原始キリスト教の思想の根源にあるものを解明できるのではないかと考えています。また、最近は注解書執筆のほか、新しい翻訳聖書発行のため、とりわけ旧約詩文学の原典翻訳と編集に力を注いでいます。旧約聖書神学の基本概念を新たに展開することが今後の課題です。



《著書・論文》

- ・著書（共著）：『果てなき探究』（教文館）、『テレビンの木陰で』（教文館）等
- ・訳書：『現代聖書注解 出エジプト記』、『現代聖書注解 コヘレトの言葉』、『現代聖書注解スタディー版 創世記』（いずれも日本キリスト教団出版局）等
- ・監訳（左近豊氏と共に）：W.ブルグマン『旧約聖書神学辞典』（日本キリスト教団出版局、2015年）



中野 実 なかの みのる

●学歴/経歴 1987年東神大大学院卒。米クレアモント大学院大学宗教学部博士課程卒（哲学博士）。日本基督教団正教師。2001年に着任、現在、教授。

●専門分野 新約聖書神学

●研究テーマ これまで信仰と歴史の関係に神学的関心を抱きつつ、史的イエス研究、福音書研究を進めてきました。たとえば、「イエスとレプラの清め：イエスにとってイスラエルとは？」『聖書学論集38』（日本聖書学研究所、2006年）を参照。さらに聖書の正典性に関する議論にも関心をもち、その分野の研究も進めています（著書・論文の項目参照）。また現在、（日本ではなかなか研究されることの少ない）ヘブライ書の研究も開始し、注解書を執筆中（日本キリスト教団出版局のNTJ注解シリーズより出版予定）です。



《著書・論文》

最近、友人の研究者たちと共に『新約聖書解釈の手引き』（日本キリスト教団出版局、2016年）を出版しました。内容は、伝統的な歴史批評学的方法論の紹介にとどまらず、むしろそれを展開していく（たとえば、社会科学批評、修辭学批評、あるいは超えていく新しい方法論（たとえば、物語批評、スピーチアクト分析、文化研究批評）の解説を提供しようとするものです。私は、「正典批評」について紹介しています。「正典批評」とは、聖書を信仰共同体（教会）の書物として再評価することに積極的に関わる学問的運動です。



焼山満里子 やきやま まりこ

●学歴/経歴 1997年東神大大学院卒。米クレアモント大学院大学宗教学部博士課程卒（哲学博士）。日本基督教団正教師。2007年に着任、現在、教授。

●専門分野 新約聖書神学

●研究テーマ パウロ書簡。初期キリスト教における共同体、教会形成。NTJ注解シリーズ（日本キリスト教団出版局）では一、二テサロニケを担当しています。また、新約聖書の証言から読み取りにくい女性の活躍を掘り起こしたいと考えています。

そのため、社会学的研究を取り入れ、見えてくることに関心を持って研究しています。新約聖書研究を通して、わたしたちを、人種、性別、地位を越えた交わりへと招く福音の真髄に触れていただきたいと思えます。



《著書・論文》

- ・訳書：『現代聖書注解 コリントの信徒への手紙1』R. B. ヘイズ（日本キリスト教団出版局 2002年）
- ・「ローマ書6章における洗礼伝承についての再考」『新約学研究』（28号、2008年、15-26頁）
- ・「アンデレ行伝におけるエバの回復：第二のエバとしてのマキシミラ」『新約学研究』（36号、2008年、32-42頁）
- ・「テモテへの手紙—2章15節『女は子を産むことで救われる』を巡る類型論的考察」『新約学研究』（38号、2010年、21-33頁）



田中 光 たなか ひかる

●学歴/経歴 2008年東神大大学院卒。加トロント大学ウィクリフ・カレッジ神学修士課程卒（神学修士）。東神大博士課程後期課程単位取得退学。日本基督教団正教師。2015年に着任、現在、助教。

●専門分野 旧約聖書神学

●研究テーマ 私の長期的な研究テーマは、旧約聖書の正典（カノン）としての意義を重んじた聖書解釈の探究です。この主題を深めた研究者として、B. S. チャイルズというアメリカの聖書学者がおりますが、私はチャイルズの思索を引き継ぎC. R. サイツの下で、イザヤ書の正典的解釈に取り組みました。「正典的解釈」とは、聖書がその最終形態において獲得している神学的構造に注意を払い、同時に、教会が聖書を神の言葉として解釈し続けてきた営みに学ぶことを大切にしている解釈的アプローチのことです。その意味で、私の関心は、旧約聖書の歴史的探究だけでなく、教会における旧約解釈にも向けられています。



《著書・論文》

- ・“Athanasius as Interpreter of the Psalms: His Letter to Marcellinus,” Pro Ecclesia 21/4 (2012): 422-447.
- ・“Anticipating the New David and the New Moses: A Canonical Reading of the Book of Isaiah”(ThM Thesis), University of Toronto/Wycliffe College (2013).
- ・「聖書学と聖書の伝統的解釈: B. S. チャイルズの思索を手がかりに」『伝道と神学』6号、2016年、77-119頁
- ・「イザヤ書4:2-6におけるメシア待望: カノンの解釈の試み」『伝道と神学』7号、2017年



神代真砂実 こうじろ まさみ

●学歴/経歴 1987年東神大大学院卒。英アバディーン大学神学部博士課程卒（哲学博士）。日本基督教団正教師。1998年に着任、現在、教授。

●専門分野 組織神学（教義学、特にカール・バルトの神学思想）

●研究テーマ 教義学・倫理学・弁証学から成る組織神学という分野ですが、教義学との関係で言えば、特にカール・バルトの神学から学びながら思索を続けています。より具体的な領域としては、三位一体論と予定論に関心があります。

教義学から倫理学や弁証学に展開するにあたって、ずっと興味を持っているのは信仰の問題です。「信じる」というのはどういうことなのか、信仰と一般的な信頼とは、どう関係しているのかといったことを考え続けています。さらには、日本人とキリスト教という問題も忘れてはなりません。この国での伝道に仕える神学をする者にとって、避けられない課題だと思っています。



《著書・論文》

著書 『ミステリの深層——名探偵の思考・神学の思考』（教文館） 古今の推理小説を題材に、神学の立場からミステリはどう読めるのか・神学のものさしでどう読むのかを論じてみた本です。やさしい話から始めて、だんだん難しくなるという構成をとっていましたが、意図していたよりも難しくなってしまったかもしれません。趣味が昂じたものだけに、楽しい仕事でしたので、手に取って頂けたら嬉しいです。



芳賀 力 はが つとむ

●学歴/経歴 1979年東神大大学院卒。独ハイデルベルク大学神学部博士課程卒（神学博士）。日本基督教団正教師。1988年に着任、現在、教授。

●専門分野 組織神学（教義学、倫理学、弁証学）

●研究テーマ ①現代社会を根底から揺るがす「神義論」を巡る諸問題に神学的に取り組み、聖書的な考え方の筋道を整理し、教会の語りに展望を開くことを目指している。

②共同体論者との対話を通じて「キリスト教的共同体論」の新たな構築を目指している。③聖書の正典的解釈を共同体の解釈学として方法論化することに努めている。④キリスト教の伝統的な教理をナラトロジー（物語論）という新しい手法を用いて再活性化し、「現代における教義学」の体系的叙述を目指している。⑤宣教学の分野で積み重ねられてきた伝道論の枠組みをたどり直しながら、「日本伝道論」を多方面から検討し、有効なストラテジーを模索している。



《著書・論文》

- ・『救済の物語』日本基督教団出版局 1997年
- ・『物語る教会の神学』教文館 1997年
- ・『大なる物語の始まり』教文館 2001年
- ・『使徒的共同体』教文館 2004年
- ・『神学の小径I 啓示への問い』キリスト新聞社 2008年
- ・『神学の小径II 神への問い』キリスト新聞社 2012年
- ・『神学の小径III 創造への問い』キリスト新聞社 2015年



須田 拓 すだ たく

●学歴/経歴 2000年東神大大学院卒。英ケンブリッジ大学神学部留学。東神大博士課程修了（神学博士）。日本基督教団正教師。2013年に着任、現在、准教授。

●専門分野 組織神学（教義学・倫理学・弁証学）、ピューリタン神学

●研究テーマ 神が父・子・聖霊なる三位一体のお方であることが信仰全体に、また教会のあり方にどのように影響を及ぼしているかに関心を持っており、救済の出来事に父・子・聖霊がどのように関わっておられるのかを探究しています。

また、自由教会を生み出し、自由や寛容といった近代世界の重要な価値概念の成立に大きく影響を与えた17世紀イギリス・ピューリタンの神学が、現代においてなおどのような意義を持ち得るかについても研究しています。



《著書・論文・訳書》

- ・「ジョン・オーウェンの三位一体論の神学における自由の理解—キリスト者の自由とその教会論並びに寛容論への影響—」（博士論文、東京神学大学 2012年）
- ・「聖霊の位格性について」『神学』76号、東京神学大学神学会 2014年
- ・「ヴォルフハルト・バネンベルクにおける福音と教会」『伝道と神学』6、東京神学大学総合研究所 2016年
- ・「17世紀イングランド・カルヴィニズムの義認論—ジョン・オーウェンの場合—」『伝道と神学』7、東京神学大学総合研究所 2017年
- ・「ジョン・オーウェンの寛容論—17世紀イングランドの寛容概念と良心の自由をめぐる—」『ピューリタニズム研究』11号、日本ピューリタニズム学会 2017年
- ・「コリン・ガントン『キリストと創造』教文館 2003年